

## 5領域（健康・生活）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいもむしクラブ】

● 項 目	● ねらい
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"><li>① 健康状態の維持・改善</li><li>② 生活習慣や生活リズムの形成</li><li>③ 基本的生活スキルの獲得</li><li>④ 生活におけるマネジメントスキルの育成</li></ul>
● 具体的な支援内容	
[健康状態の把握]	
登所後、毎日心身チェックを行う。利用時における体調観察を細やかに行うことにより、体調不良時の把握、対応につなげる。	
[健康の増進]	
キッズヨガ・呼吸法を通して、自分の心と身体に向き合うこと、休息することを学ぶ時間をつくる。 身体を使った各種の活動（水泳・トランポリン等運動プログラムや日々のあそび）のなかで、健康生活の基本となる体づくりを行う。	
[生活習慣や生活リズムの形成]	
予定表を確認する作業を行うことで、一日の予定を視覚的に確認する習慣をつけることにより、見通しをたて安心して次の行動に移るリズムをつくる。	
[基本的生活スキルの獲得]	
個別活動のなかで、片付け（整理整頓）、時間や決まりを意識した時間を設ける。 食事、排泄、身の回りの清潔等、日常生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、子どもの状態に応じて、適切な時期、場面に、適切な支援をする。 さまざまな遊びや体験を通した学びが促進されるよう環境を整える。 また、障がい特性に配慮し、時間や空間を本人にわかりやすく構造化する。	
[生活におけるマネジメントスキルの育成]	
個別活動の内容を、自分で何をするかアイデアを出しながら、大人と相談し、計画・実行すること等を通し、自ら組み立ててできる行動を増やしていくよう支援する。	

## 5領域（運動・感覚）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいもむしクラブ】

● 項 目	● ねらい
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"><li>① 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上</li><li>② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用</li><li>③ 保有する感覚の総合的な活用</li><li>④ 感覚の特性への対応</li></ul>
● 具体的な支援内容	
[姿勢と運動・動作の基本的技能の向上]	
日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図る。 個別活動、集団活動のなかで、起立姿勢、椅子や机を用いた座位姿勢において正しい姿勢を習得できるよう支援する。 ミニトランポリン、バランスボール、縄跳びやフラフープ等の器具、遊具を使った活動やあそびを通して粗大運動を、 また、手芸等のてしごとや、折り紙、切り紙等の創作活動を通して微細運動の習得を支援する。	
[感覚の補助及び代行手段の活用]	
ICTを積極的に活用する。また眼鏡や補聴器などの各種の補助機器を安全に効果的に活用できるよう支援を行う。	
[保有する感覚の活用]	
一人一人が保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚等の感覚を十分に活用できるよう、あそびや各活動を通して支援する。 器具、遊具を使った様々なタイミングの感覚、ボールを使っての体の動かし方、強弱の力感覚、方向感覚の習得等を支援する。	
[感覚の特性への対応]	
感覚の特性（過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等を行う。（イヤーマフの利用、クールダウンスペースの利用等） 楽しく運動ができるよう、状況（屋外、屋内、広さ、安全の確保）に合わせた道具や方法を用いて支援を行う。	
★運動プログラム：水泳　　トランポリン	
身体を使った各種の活動（水泳・トランポリン等運動プログラムや日々のあそび）のなかで、身体の基本的技能、感覚等を総合的に向上できるよう支援する。	

## 5領域（認知・行動）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいもむしクラブ】

● 項 目	● ねらい
認知・行動	<p>① 認知の特性についての理解と対応</p> <p>② 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 (感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、 認知や行動の手がかりとなる概念の形成)</p> <p>③ 行動障害への予防及び対応</p>
● 具体的な支援内容	
[認知の特性についての理解と対応]	
一人一人の認知の特性を理解し、それらを踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援する。 こだわりを受容した上での支援を検討する。	
[感覚の活用や認知機能の発達]	
視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集・整理しやすいよう、各活動のなかで、色、音、絵、文字、道具等を用いたり、 絶えず工夫をし、認知機能の発達を促す支援を行う。	
[知覚から行動への認知過程の発達]	
情報を取得しやすいよう、絵カード、文字カード、ルール表、予定表などの「見える化」グッズの利用、タブレット等ICTの活用等を通じて 自ら必要なメッセージを選択し、行動につなげることができるよう支援を行う。	
[認知や行動の手がかりとなる概念の形成]	
数量の予測、大小の選択、色の認知等、ブロックや色積み木、立体パズル、ジェンガ、百玉そろばんなど、遊びや活動のなかで、 無理なく、概念の習得ができるよう支援する。 折り紙・千代紙遊びや、色画用紙、クレパス、絵の具等を利用した創作活動のなかで、素材や感覚を楽しみながら、概念の習得がなされる よう支援する。	
[行動障害への予防及び対応]	
一人一人の認知の特性を踏まえ、予定表やカードなどを用いて、本人が情報を適切に処理し、自ら選択し、安心して正しく行動できるよう支援する。	

5領域（言語・コミュニケーション）とのつながりを明確化した支援内容  
【放課後等デイサービスいもむしクラブ】

● 項 目	● ねらい
言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>① コミュニケーションの基礎的能力の向上・コミュニケーション手段の選択と活用</li><li>② 言語の形成と活用</li><li>③ 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得</li><li>④ 状況に応じたコミュニケーション</li><li>⑤ 読み書き能力の向上</li></ul>
● 具体的な支援内容	
[コミュニケーションの基礎的能力の向上・コミュニケーション手段の選択と活用] 障がいの種別や程度、興味・関心等に応じて、言葉だけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやり取りが行えるようにするなど コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけることができるよう支援する。	
[言語の形成と活用] 集団活動のなかで、小さな話し合い、会議の場を設けるなどして、議題に沿った言葉を使う機会を作る。 個別活動のなかで、自らの活動内容を企画し実践する機会を定期的にもち、場面に応じた言葉の選択、コミュニケーション方法の習得を支援する。 具体的な体験に言葉の意味を結びつける作業をていねいに行い、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 また、自分の考えを伝えたり、人の意見を聞き入れ相手の意図を理解する等、相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を支援する。	
[状況に応じたコミュニケーション] ボードゲームやカードゲーム等の室内あそびや、鬼ごっこ等の外あそび等を通して、場や相手の状況を把握する力、 主体的にコミュニケーションを展開できる力を養う。 各種の集団特別プログラム（水泳・トランポリン等運動プログラムや英語プログラム）や日々の活動の中で、 指示を聞きそれに応える力、相手や状況に応じたコミュニケーションを展開できる力を養う。	
[読み書き能力の向上] 毎日の活動の中に、音読や綴り方のプリント練習を取り入れ、本人の気持ちに沿いながら無理なく行う。 色々なカルタや知育玩具等を用いて、一人一人の興味、能力にあった読み書きの向上をめざす支援を行う。 ICTの活用、教具の利用など、一人一人の特性に応じた読み書き能力向上のための支援を行う。	

5領域（人間関係・社会性）とのつながりを明確化した支援内容  
【放課後等デイサービスいもむしクラブ】

● 項 目	● ねらい
人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"><li>① アタッチメント（愛着）の形成と安定</li><li>② 情緒の安定</li><li>③ 他者との関わり（人間関係）の形成</li><li>④ 遊びを通じた社会性の発達</li><li>⑤ 自己の理解と行動の調整</li><li>⑥ 仲間づくりと集団への参加</li></ul>
● 具体的な支援内容	
[アタッチメント（愛着）の形成と安定]	
基本的な信頼関係を持つことができるよう、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分自身に対する信頼感を育む支援をめざす。	
[情緒の安定]	
自分の感情や気持ち、生理的な状態像に关心を持ち、その変化の幅を安定させることに興味を持つことができるよう援助し、 変化の幅が小さく安定した情緒の下で生活ができるよう支援する。 「きもちのスケール」等を用いて、感情の見える化、言語化をサポートする。	
[他者との関わり（人間関係）の形成]	
他者の気持ちや意図を理解し、他者からの働きかけを受け止め、それに応ずることや場に応じた適切な行動ができるように支援する。	
[遊びを通じた社会性の発達]	
多様なあそびを通じて、社会性の発達や対人関係の構築を支援する。	
[自己の理解と行動の調整]	
自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解し、自己を肯定的に捉えられる機会を通じて、気持ちや情動を調整し、 状況に応じた行動ができるよう、一人一人に合わせた声掛け支援、行動支援を行う。	
[仲間づくりと集団への参加]	
個別活動からグループ活動へ順にすすめ、一人一人の状況や状態に合わせて集団活動へ促す。 受け入れる側（集団）の児童生徒に対し、相手の気持ちや状況等を理解するための話し合い、声掛け支援を行い、安心して集団へ参加できるよう <sup>1</sup> 参加する方法の習得についても支援する。	